

この資料は、インターシステムズ FAQ トピック番号 261 に関連した参考資料で、マルチサーバライセンス使用時の、ライセンス・サーバのフェールオーバーを目的とした設定について、補足する資料です。

目次

1. ライセンスキーファイルの配布.....	2
2. ライセンス・サーバの設定.....	2
3. ライセンス・サーバ設定の反映.....	3
4. ライセンス用ユーティリティ.....	3

説明の環境

以下、3 台の構成があるとします。

例) データベースサーバ 1 台、アプリケーションサーバ 2 台(A、B とします。)

1. ライセンスキーファイルの配布

マルチサーバライセンスキー (InterSystems IRIS の場合は iris.key / それ以外は cache.key) を、ライセンスを共有する全ての構成にコピーします。例の環境では、3 台全て構成に、同じライセンスキーファイルを配置します。

ライセンスキーファイルは、以下ディレクトリにコピーしてください。

<InterSystems 製品インストールディレクトリ>\mgr¥ [ここ]

2. ライセンス・サーバの設定

ライセンスを共有する全ての構成に「ライセンス・サーバ」の設定を行います。

例の環境で、データベースサーバと、1 台のアプリケーションサーバ A をライセンス・サーバとする場合、3 台全ての構成に、2 台のライセンス・サーバの情報を設定します。(3 台全てに同じ情報を設定します。)

設定内容については、ドキュメントもご参照ください。

【InterSystems IRIS】

[\[システム管理ガイド\]](#) > [\[InterSystems IRIS ライセンスの管理\]](#) > [ライセンスサーバの構成](#)

【Caché/Ensemble】

[\[Caché システム管理ガイド\]](#) > [\[Caché のライセンス管理\]](#) > [ライセンスサーバの構成](#)

設定する管理ポータル内メニューは以下の通りです。

【Caché2011.1 以降/InterSystems IRIS】

[管理ポータル] > [システム管理] > [ライセンス] > [ライセンスサーバ]

【Caché2010.2 以前】

[システム管理ポータル] > [ライセンス] > [ライセンスサーバ]

3. ライセンス・サーバ設定の反映

例の環境で、データベースサーバの構成を主のライセンス・サーバとし、アプリケーションサーバ A を 2 次ライセンス・サーバとする場合の手順は以下の通りです。

- (1) ライセンス・サーバ設定を反映させるため、一旦全ての構成を停止します。
- (2) 主のライセンス・サーバとなる構成を最初に開始します。(例の環境では、データベースサーバ)
- (3) 主のライセンス・サーバ開始後、ターミナル上で以下コマンドを実行し、起動した構成がライセンス・サーバとして動作していることを確認します。(ネームスペースはどこでも実行できます。)

```
do $system.License.ShowServer()
```

- (4) 2 次ライセンス・サーバとなる構成を開始します。(例の環境では、アプリケーションサーバ A)
- (5) 2 次ライセンス・サーバ起動後、主のライセンス・サーバをライセンス・サーバとして認識していることを確認するため、`$system.License.ShowServer()`を利用して確認します。
- (6) 最後に、ライセンス・サーバ設定がされていない他の構成(例の環境では、アプリケーション B)を開始し、開始後、主のライセンス・サーバをライセンス・サーバとして認識していることを確認します。

4. ライセンス用ユーティリティ

ライセンス・サーバの設定により、全ての構成のライセンス消費情報を統合管理することができます。

ライセンス構成全体で、どれだけライセンスを消費しているか？などについては、`$system.License` から始まる`%SYSTEM.License` クラス以下のユーティリティを使用します。(クラスリファレンスをご活用ください。)

以下コマンド実行例は、ライセンス構成全体で消費しているライセンスを、ライセンス・サーバ上にテキスト形式のファイルで出力する例です。

```
do $system.License.DumpServers()
```